２ ライフラインの復旧プロセスにおける連携に関する研究（防災科学技術研究所）

都市化の進展に伴い，我々の生活はますますライフラインに依存したものとなっており，災害時におけるライフライン情報はもっともニーズの高い情報の１つである．本研究では，危機時におけるライフライン情報の共有のあり方とその利活用について検討を行う．

平成 17 年度は「ライフライン情報共有分科会」に交通管理機関，通信事業者を新たに加え，危機時におけるライフライン情報の共有のあり方とその利活用について検討を進めることとし，交通管理機関として国土交通省，警察庁，通信事業者として東日本電信電話（株），及び中央省庁間のプラットフォーム開発を推進している内閣府の参画を得て，危機時におけるライフライン事業者間及び防災関係機関間との情報共有のあり方について，実務的な立場から検討を行った．ライフライン関係機関が管理／把握している情報の種類や精度及び，各機関が対応上必要となるクリティカルな情報について整理し，減災情報共有プラットフォームの構築とその利活用に向けての課題について検討し，プラットフォームの要件として整理した．

平成 18 年度は，見附市実証実験に向けて，実証実験のシナリオにしたがって実験で使用する情報項目を選定し，スキーマを作成する．次にこのスキーマを反映させたライフライン事業者用の情報共有プロトタイプシステムを構築し，実証実験に適用し，その妥当性を検証する．

研究項目は**表 2-1** に示すとおりで **2.1 節**のみである．

表 2-1　本研究を構成するサブ研究テーマと研究担当機関

節	サブ研究テーマ名	研究担当機関
2.1	ライフライン事業体との情報共有	防災科学技術研究所